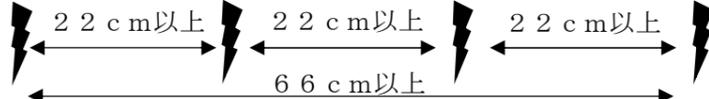


提出必要書類等一覧

【新市場開拓用米・加工用米①】

取組メニュー	取組内容・取組基準	交付金の交付に当たって提出が必要となる書類等
直播栽培	<p>湛水直播栽培や乾田直播種栽培</p> <p>【取組基準】 育苗作業を省略し、直播に対応した播種機等を用いて種もみを直接ほ場に播種する栽培を行うこと</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 湛水直播栽培，乾田直播種栽培の実施状況が分かる写真（出芽時の田面の写真）</p> <p>③ 湛水直播栽培，乾田直播種栽培に使用した機械本体の写真（全体，型番）</p> <p>④ 【専用アタッチメントを使用している場合】機械本体に取り付ける専用アタッチメント（当該機能を担う部分）の写真（全体，型番）</p>
疎植栽培	<p>地域の慣行栽培（県の栽培技術指針等）における移植密度に比べ密度を低くし，移植に要する苗箱数を減らす取組</p> <p>【取組基準】 疎植に対応した田植機を使用し，苗の移植密度を地域の慣行レベルの80%以下又は50株/坪（15.2株/m²）以下とすること ※ 都道府県等の栽培指針等に疎植の基準が示されている場合はこれによること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 株間にメジャーを当てた写真（4株の株間にメジャーを当てて，66cm以上になっていることが分かる写真）</p> <p>※ 株間22cm以上</p> <div data-bbox="2050 562 2831 730" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【写真のイメージ】</p>  </div>
高密度播種育苗栽培	<p>地域の慣行栽培（県の栽培技術指針等）における育苗密度に比べ密度を高くし，移植に要する苗箱数を減らす取組</p> <p>【取組基準】 慣行栽培（乾籾100～150g（催芽籾125～187g））より育苗密度が高くなるよう，乾籾250～300g（催芽籾312～375g）を播種・育苗し，高密度播種育苗に対応した田植え機を用いて移植すること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 高密度播種育苗に使用した田植え機本体の写真（全体，型番の写真）</p> <p>③ 【専用アタッチメントを使用している場合】田植え機本体に取り付ける専用アタッチメント（当該機能を担う部分）の写真（全体，型番の写真）</p> <p>※ 乾籾使用量：苗箱1箱当たり250g以上</p>
プール育苗	<p>プールを設置し，プール内に苗箱を置き湛水状態で行う育苗</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② プール育苗の実施状況が分かる写真</p>
温湯種子消毒	<p>農薬を使用せず約60℃の温湯に種籾を浸漬し，種子消毒を行う取組</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 温湯種子消毒の実施状況が分かる写真（水温が分かる写真）</p> <p>③ 温湯種子消毒に使用した機械の写真</p>
作期分散	<p>作期の異なる複数品種を作付けし，作期を分散する取組</p> <p>【取組基準】 農業経営体の水稻生産全体の中で，上記の取組を行うこと。必ずしも新市場開拓用米又は加工用米だけで複数品種を作付けし，作期を分散する必要はない。</p>	<p>JAうつのみやの水稲の契約情報と出荷時の検査実績で，事務局が取組状況を確認しますので，作期分散に関する根拠資料の提出は必要ありません。</p>
土壌診断等を踏まえた施肥・土づくり	<p>土壌診断に基づく施肥，有機質資材や土壌改良資材の施用</p> <p>【取組基準】 pH，窒素，リン，カリについて分析を行う土壌診断又は葉緑素計を用いた葉色診断の結果に基づいて，肥料や有機質資材，土壌改良資材を施用すること。</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 土壌診断の結果（写し）</p>
効率的な施肥	<p>流し込み施肥，側条施肥</p> <p>【取組基準】 流し込み施肥（※1），側条施肥（※2）のいずれかに取り組むこと ※1 水口に流し込み施肥用の装置を設置し，肥料を灌漑水とともに流し込む ※2 側条施肥に対応した田植機を使用し，移植と同時に株溝の土中にすじ状に肥効調節型肥料を施用する</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 流し込み施肥，側条施肥の実施状況が分かる写真</p> <p>③ 流し込み施肥，側条施肥に使用した機械本体の写真（全体，型番の写真）</p> <p>④ 【専用アタッチメントを使用している場合】機械本体に取り付ける専用アタッチメント（当該機能を担う部分）の写真（全体，型番の写真）</p> <p>⑤ 肥料の購入伝票（写し）</p>

【新市場開拓用米・加工用米②】

取組メニュー	取組内容・取組基準	交付金の交付に当たって提出が必要となる書類等
<p>効率的な農薬処理</p>	<p>播種時同時処理，田植え同時処理</p> <p>【取組基準】 播種時同時処理（※1），田植え同時処理（※2）のいずれかに取り組むこと ※1 専用の機械を使用し，播種と同時に農薬を処理する ※2 専用の機械を使用し，移植作業と同時に農薬を処理する</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式） ② 播種時同時処理，田植え同時処理の実施状況が分かる写真（農薬を機械に入れているときの写真） ③ 播種時同時処理，田植え同時処理に使用した機械本体の写真（全体，型番の写真） ④ 【専用アタッチメントを使用している場合】機械本体に取り付ける専用アタッチメント（当該機能を担う部分）の写真（全体，型番の写真） ⑤ 同時処理で登録のある薬剤の購入伝票（写し）</p>
<p>農業機械の共同利用</p>	<p>地域における農業機械の共同利用やシェアリングサービスの活用</p> <p>【取組基準】 農業経営体間で農業機械の共同利用を行うこと又は農業機械のシェアリングサービスを活用すること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式） ② 農業機械を共同利用した実績が分かる書類（写し）</p>
<p>スマート農業機器の活用</p>	<p>ドローンや水管理システム等の活用</p> <p>【取組基準】 ロボット，AI，IoTなどの先端技術を活用したスマート農業機器・システムを使用すること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式） ② スマート農業機器・システムの写真（全体，型番） ※ 作業を委託する場合は，委託して取り組んだことが分かる書類（申込書，領収書等）</p>
<p>ほ場由来の温室効果ガスの削減</p>	<p>ほ場由来の温室効果ガスの削減</p> <p>【取組基準】 長期中干し（地域の慣行日数に対して7日間以上延長），秋耕，のいずれかに取り組むこと</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式） ② 長期中干し，秋耕の実施状況が分かる写真</p>